

**製品名: SPAM1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21199**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:300
分子量	Calculated MW::Observed MW:56kD

**抗原情報**

遺伝子名	SPAM1;HYAL3;PH20
別名	SPAM1;HYAL3;PH20;Hyaluronidase PH-20 ;Hyal-PH20;Hyaluronoglycosaminidase PH-20;Sperm adhesion molecule 1;Sperm surface protein PH-20;
遺伝子 ID	6677.0
SwissProt ID	P38567
免疫原	ヒト SPAM1 の組み換えタンパク質

**背景**

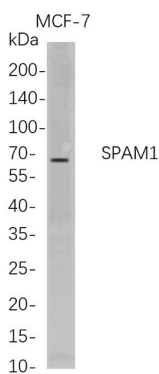
細胞局在: 細胞膜; 脂質アンカー、GPI アンカー。ヒアルロニダーゼは、細胞外マトリックスおよび基底膜に存在する主要な構造プロ

テオグリカンであるヒアルロン酸を分解します。ヒアルロニダーゼファミリーには 6つのメンバーがあり、染色体 3p21.3 と 7q31.3 上に密接に連鎖した 2つのグループにクラスター化されています。この遺伝子は以前は HYAL1 および HYA1 と呼ばれていましたが、その後、正式遺伝子名 SPAM1 が割り当てられました。染色体 3p21.3 上の別のファミリーメンバーには HYAL1 が割り当てられています。この遺伝子は、ヒト精子表面および先体内膜に位置する GPI アンカー型酵素をコードしています。この多機能タンパク質は、ヒアルロニダーゼであり、精子が卵母細胞を取り囲むヒアルロン酸に富む卵丘細胞層を透過することを可能にする。また、ヒアルロン酸誘導性細胞シグナル伝達に関与する受容体であり、精子と透明帯の接着にも関与する。腫瘍におけるこの遺伝子の異常発現は、このタンパク質が基底膜の分解に関与し、腫瘍の浸潤および転移につながることを示している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2010年3月]

## 研究分野

-

## 画像データ



MCF-7 全細胞ライセートのウェスタンブロット解析では、4~20% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを抗 SPAM1 ウサギモノクローナル抗体でブロッティングした。抗体の検出には、HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。